

地域看護学

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	1人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	2人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	1人
その他(技術補佐員等)	0人
合 計	5人

1-2 教員の異動状況

巽あさみ、教授、平成17年10月1日(採用平成16年4月21日)～現職
大塚敏子、准教授、平成24年8月1日(採用平成20年4月1日)～現職
水田明子、助教、平成20年4月1日(採用平成20年4月1日)～現職
山岸暁美、助教、平成26年4月1日(採用平成26年4月1日)～平成28年7月31日退職
佐野雪子、助教、平成26年9月1日(採用平成26年9月1日)～現職

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名	職域のうつ病・自殺を予防するための睡眠保健指導ICTシステムの開発
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	職域ではうつ病や自殺予防等のメンタルヘルス対策を行っていく上で、労働者が抱えている健康上の問題が保健指導レベルの問題なのか、治療レベルの問題なのか、職場環境改善の介入が必要な状況なのかについて適切に判断すべきだとしている。今までに職域でより多くの対象者をカバーするために健康診断時に不眠をスクリーニングし、不眠の要因別に対応した保健指導による不眠の改善や専門医につなげることによってうつ病等予防ができるように構造化した。本研究では、職域でのICTによる睡眠保健指導システムを開発し、実際に事業場の保健師が活用することによって、睡眠保健指導の効果(不眠の改善、うつ病・不安障害等の指標の改善、医療費の低減等)、保健師の睡眠保健指導ICTシステム使用に関する評価を行う。
2	(1)研究・開発等のテーマ名	若年女性労働者の不眠に対する包括的睡眠改善プログラムの開発
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	本研究は、若年女性労働者の睡眠に関し、従来より課題となっていた睡眠時間の短さや睡眠不足感について、グループカウンセリングやエクササイズプログラムによりその効果を、分析・解明したものである。この手法は、データを主観的評価とウエアラブルを使用した客観的評価の双方から評価するという点で画期的であり、これによりより良い睡眠をとるための方法が明らかとなる。
3	(1)研究・開発等のテーマ名	発達障害児をもつ養育者支援における保健師－保育士の連携促進プログラムの開発
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	「発達障害があると思われるが診断はされていない子ども」(以下、気になる子ども)が増加しており、こうした子どもをもつ保護者への支援の充実が急務である。特に乳幼児期は未診断で保護者も不安定な精神状態におかれやすいため、この時期に接する機会の多い保育士・保健師の支援は重要であるがその連携には課題も残っている。そこで本研究では気になる子どもを持つ養育者に対する保健師および保育士の連携促進に向けたプログラムの開発を目的とする。具体的には両職種の連携実態の把握および連携促進に向けたプログラムの開発、実施、評価を行う。
4	(1)研究・開発等のテーマ名	思春期の抑うつと乳幼児期からの家庭要因及び環境要因に関する研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	これまでの横断研究によりクラス担任からのサポートと中学生の抑うつとの関連が明らかになった結果に基づき、日本でも縦断研究によって因果関係を確認する。クラス担任からのサポートによる中学生の抑うつ緩和効果を明らかにする。更に、健康診断の結果を用いて中学生のBMI(Body mass index)と、保護者から得た経済状況(子の出生時、7歳時、中学生)との関連を明らかにする。
	(3)前年度までの状況	調査協力校を確保し、調査内容と方法の協議、校長会やPTA役員会での調査の説明を行った。
	(4)当該年度内の進捗	平成28年6月に初回調査、平成29年3月に追跡調査を実施した。
	(5)翌年度の方針と予想	データの入力を行い、分析の結果を学会で発表する。論文を作成し投稿する。調査内容を報告書としてまとめ、調査協力校に集計結果として報告する。

3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	5編 (3編)
そのインパクトファクターの合計	2.513
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	2編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	1編 (1編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	2編 (2編)
(5)症例報告数(うち和文のもの)	1編 (1編)
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	大塚敏子, 巽あさみ: 発達上“気になる子ども”の保護者に対する保育園の保育士の支援内容, 日本公衆衛生看護学会誌, 5(3), 219-229, 2016.	0.000
2.	Mizuta A, Suzuki K, Yamagata Z, Ojima T. Teachers' support and depression among Japanese adolescents: a multilevel analysis. Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology, 2016, 1-9.	2.513
3.	Mizuta A, Fujiwara T, Ojima T. Association between economic status and BMI among adolescents: A community-based cross-sectional study in Japan. BMC Obes, 2016 Nov 10;3:47	0.000
4.	水田明子, 岡田栄作, 尾島俊之. 日本の中学生のいじめの加害経験に関連する要因-クラスレベルと個人レベルでの検討-. 日本公衆衛生看護学会誌 5(2): 136-143, 2016	0.000

論文数(A)小計 4 うち和文 2 IF小計 2.513

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	青山和加子, 巽あさみ: 産業保健師活動に活かされた看護系大学院研究科修士課程(博士前期課程)での学習経験の構造概念化, 産業衛生学雑誌, 59(1), 9-18, 2017	0.000

論文数(B)小計 1 うち和文 1 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

論文数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	巽あさみ: 日本産業看護学会第5回学術集会開催報告, 週刊保健衛生ニュース, 第1888号, 54-55, 2016	0.000

論文形式のプロシーディングズ数(A)小計 1 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文形式のプロシーディングズ数(B)小計 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	柳川洋, 尾島俊之, 北村邦夫, 中村好一, 倉田貞美, 近藤今子, 巽あさみ, 千原泉, 坪井聡, 中村美詠子, 西山慶子, 原岡智子, 水田明子, 渡辺晃紀(五十音順), 保健指導ノート2017 公衆衛生の現状, (社)日本家族計画協会, 東京	0.000

論文形式のプロシーディングズ数(C)小計 1 IF小計 0.000

(2-2) レター

レター数小計 0 IF小計 0.000

(3) 総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	巽あさみ, 大塚敏子: あなたもわかる産業ストレス研究(質的研究編)いろいろな研究デザイン 看護概念創出法, 産業ストレス研究, 23(4) 355-360, 2016	0.000

総説数(A)小計 1 うち和文 1 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著書数(A)小計 0 うち和文 0

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	丸山総一郎,金井篤子,小林由佳,瀬戸昌子,渡井いずみ,井上まりこ,本庄かおり,津野香奈美,中島聡美,武田裕子,水野康弘,張賢徳,堤明純,黒木宣夫,三木明子,石川俊夫,永田頌史,喜多村祐里,巽あさみ,野原理子,小山文彦,松下幸生,藤田さかえ,真栄里仁,瀬藤乃理子,森崎美奈子,長見まき子,種市康太郎,市川佳居,奥西好天,山田長伸,錦谷まりこ,島津明人,大塚泰正,仲澤祐子,渡辺和広,中山健夫,中田光紀,廣尚典:働く女性のストレスとメンタルヘルスケア,創元社,187-194(8),2017.3	/
2.	池田智子,加藤貴彦,森岡郁晴,桜井なおみ,小島健一,猪俣久美,畑中純子,三宅晋司,巽あさみ:産業看護学,講談社,204-211(8),2016	/

著書数(C)小計 2 うち和文 2

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	巽あさみ:メンタルヘルス対策に活かす睡眠保健指導の知識とスキル,産業ストレス研究,24(1),124,2016	0.000

症例報告数(A)小計 1 うち和文 1 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

症例報告数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

症例報告数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	6件	412万円
(2) 厚生労働科学研究費	0件	0万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0件	0万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0件	0万円
(5) 他政府機関による研究助成	0件	0万円
(6) 財団助成金	0件	0万円
(7) 受託研究または共同研究	1件	182万円
(8) 奨学寄附金	0件	0万円
(9) 学内プロジェクト研究	1件	45万円

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	巽あさみ、職域のうつ病・自殺を予防するための睡眠保健指導ICTシステムの開発、平成25年～29年度、代表	45万円
2.	巽あさみ、ストレスと睡眠の質や量、健康感のメカニズムに関する生理機能からのアプローチ、平成26年～29年度、分担、代表者 広島県立大学・飯田忠行	5万円
3.	大塚敏子(代表)、巽あさみ(分担)、発達障害児をもつ養育者支援における保健師-保育士の連携促進プログラムの開発、平成27年～30年度	80万円
4.	大塚敏子、メタボリックシンドロームのリスクをもつ成人への費用対効果の高い保健指導の開発、平成26年～28年度、分担、代表者 国際医療福祉大学・荒木田美香子	10万円
5.	水田明子、思春期の抑うつと乳幼児期からの家庭要因及び環境要因に関する研究、平成27～29年度、代表	152万円
6.	山岸暁美、救急・在宅医療連携による地域介入が終末期医療に及ぼす影響の実証とメカニズムの解明、平成27年度～平成30年度、代表	120万円

(7) 受託研究または共同研究

1.	巽あさみ、若年女性労働者の不眠に対する包括的睡眠改善プログラムの開発・平成28年～29年度 代表	182万円
----	--	-------

6 大型プロジェクトの代表、総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0件	0件
2) シンポジウム発表数	0件	1件
3) 学会座長回数	0件	6件
4) 学会開催回数	0件	1件
5) 学会役員等回数	0件	13件
6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

6) 一般発表

6-2) ポスター発表

1.	Akiko Mizuta, Eisaku Okada, Hisayoshi Yamaguchi, Toshiyuki Ojima. Association between time perspective and type of involvement in bullying among junior high school students in Japan. The 7th International Conference on Community Health Nursing Research. 15-16 September, 2016 Canterbury UK
----	---

(2) 国内学会の開催・参加

2) シンポジウム発表

1.	巽あさみ、産業保健専門職の人材育成 キャリアに応じた教育のあり方を考える 大学教育における産業看護職の人材育成、第89回日本産業衛生学会、産業衛生学雑誌、58巻臨時増刊号、P126、福島、2016年5月
----	---

3) 座長をした学会名

1.	巽あさみ、日本地域看護学会第19回学術集会、栃木、2016年8月
----	----------------------------------

2.	巽あさみ、日本産業看護学会第5回学術集会、浜松市、2016年11月
3.	巽あさみ、第24回日本産業ストレス学会、東京、2016年11月
4.	巽あさみ、平成28年度日本産業衛生学会東海地方会学会、浜松市、2016年12月
5.	大塚敏子、日本産業看護学会第5回学術集会、浜松市、2016年11月
6.	水田明子、日本産業看護学会第5回学術集会、浜松市、2016年11月

4) 主催した学会名

1.	巽あさみ、学術集会長、日本産業看護学会第5回学術集会(浜松市)、2016年11月、270名
2.	大塚敏子、水田明子、佐野雪子、実行委員、日本産業看護学会第5回学術集会(浜松市)、2016年11月、270名
3.	巽あさみ、実行委員、第24回日本産業ストレス学会(東京)、2016年11月、900名
4.	水田明子、実行委員、日本産業衛生学会東海地方会学会(浜松市)、2016年11月、128名

5) 役職についている国内学会名とその役割

1.	巽あさみ、日本産業衛生学会代議員、産業衛生学雑誌・JOH編集委員、日本産業衛生学会東海地方会理事、日本産業衛生学会看護部会研究担当幹事、日本地域看護学会評議員、日本公衆衛生看護学会編集委員、日本産業看護学会理事・編集委員、日本産業ストレス学会理事・産業看護職委員長・編集委員、日本看護医療学会理事、東海公衆衛生学会評議員
----	--

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1) 外国	(2) 国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0 件	5 件

(2) 国内の英文雑誌等の編集

1.	巽あさみ、Journal of occupational Health、Associate Editor、PubMed/Medline登録有、【IF:1.446】
----	---

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1.	水田明子、1回 Plos-one (米国) 【IF:3.507】
----	----------------------------------

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	2 件

(3) 学内共同研究

1.	巽あさみほか: 高齢者の睡眠に関連する健康行動-睡眠教育の前後比較-、平成28年7月~平成30年3月、平成28年度プロジェクト研究費45万円
2.	水田明子、尾島俊之: 貧困が子どもの肥満に与える影響-保護者の所得と健康診断実測値での検証-、平成28年7月~平成30年3月、企画型基盤育成事業経費40万円

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	1 件

11 受賞

12 新聞、雑誌、インターネット等による報道

1.	巽あさみ: 2016年12月14日富士ニュース(新聞)、社会関係資本を学ぶ 健康ふじ推進会議の講演内容の紹介
2.	巽あさみ: 2016年9月15日、浜松市報道発表 浜松医科大学との連携事業 「スッキリ睡眠でいきいきと」高齢者の睡眠と健康 講演会の開催について」
3.	巽あさみ: 2016年9月29日、浜松市HP 浜松医科大学との連携事業 講演会の開催開催結果、100人の参加、講師、講演内容の紹介
4.	巽あさみ: 2017年1月14日(土)日本テレビ「世界一受けたい授業」で、巽が修正した睡眠のシナリオが放送、解説と根拠論文を提案、TV放送では「医療監修 浜松医科大学 巽あさみ」と紹介

13 その他の業績

1.	巽あさみ、全国保健師教育機関協議会、広報・国際委員長
2.	大塚敏子、全国保健師教育機関協議会、広報・国際委員会、委員
3.	水田明子、日本看護科学学会若手の会・エリア・コーディネーター